

○基礎・基本の定着と主体的に学習に取り組む態度を育成するための指導方法の工夫と改善
○言語活動の充実とICTの活用を図る授業の実践

学力向上推進員	校長	教頭
松永 絵美(研修主任)	下学年部会	上学年部会 学習研修部

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にまじめに取り組めたりできる児童が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	○学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ○問題や長文を読み取る力、文章を書く力を身に付ける。	① 個に応じたタブレット学習や読書の時間を設定する等朝の活動の内容を工夫改善する。 ② 総合や生活科の時間などを通して、他教科で学習したことを活かせるような活動を取り入れる。 ③ 詩や短文の視写や日記・お礼文など様々な文章を書く機会を設けたり、手引きなどを作成したりする。 ④ 既習の学習や文章問題などの様々な問題を宿題や朝の活動などの時間に行う。	宿題だけでなく、朝の活動の時間に読解問題に取り組むようにする。また、お礼文や視写など様々な文章を書く機会をさらに設けていく。	① 朝の活動では読書活動をする学級が多く読書の時間を十分にとることができた。 ② 国語科で学んだ話し合いの仕方などを生活科や総合の学習で活かすことができた。 ③ 手引きを作成したり、日記や感想文やお礼文など様々な場面で書く活動を多く取り入れたりして文章を書く力を育むことができた。 ④ 宿題などで文章問題などの読解問題にも進んで取り組ませることができた。	タブレット学習や読書の時間などの朝の活動の内容を教員間で再検討し児童の基礎学力の定着を図っていく。 児童がよい文章にふれるために、手引き書や児童のお礼文などを参考用に集めておき、学年の発達段階に応じて書く指導に役立てていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分が伝えたいことは、伝えることができるようになってきている。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることが苦手な児童が多い。	○各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ○習得、活用、探究の各場面において、他者の意見を尊重し、自己の考えを広げ、適切な言語活動により表現することができる。	① テーマトークやミニプレゼンなど、情報のやり取りをする機会を学年に応じて取り入れる。 ② 一日一回以上ペア・グループ学習に機会を設定し、地域人材を活用した交流の場を効果的に活用する。 ③ ホワイトボードやICT機器を効果的に活用した発表や話し合い活動の時間を一日一回以上取り入れる。	1日1回以上は、または1単元1回以上、ペア・グループ学習の場を設ける。また、どの単元でミニプレゼンを行うかを検討する。	① テーマトークやミニプレゼンなど学年に応じて行うことができた。 ② 地域人材を活用し様々な場面で交流を行う中で感想など自分の考えなどを伝えることができていた。 ③ 1日1回以上は難しかったが、話し合い活動を積極的に行うことができた。	学級会などの話し合い活動や国語の学習を通して、相手の意見を尊重しながら聞く。学年の発達段階に応じて比較や分類しながら、自分の思いを表現することができるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題については、真面目に取り組み、宿題の提出もほぼ全員ができている。 ●自分で、めあてや課題を決めて、学習し振り返りをするのは難しい。 ●自ら進んで、本を読んだり借りたりするのは個人差がある。 ●一生懸命に学習に取り組むが、新たなことに挑戦したり、集中力が続かなかったりする児童がいる。	○自分で目標を立て、粘り強く家庭学習や読書に取り組むことができる。 ○学んだことを振り返り、課題を解決した達成感と次への課題意識を持つことができる。 ○集中して学習に取り組むことができる。	① 家庭学習の手引きや自主勉強の見本を掲示し、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ② 家庭学習充実月間に「家庭学習がんばりカード」で目標を立て意欲的に取り組めるようにし、保護者と連携して家庭学習の定着を図る。 ③ 朝の読書や週末読書をさらに定着させ、多読賞や完読賞の表彰、リーディングバディにより読み聞かせを年3回程度行う。 ④ 集中して学習に取り組めるように、話す・聞く姿勢の定着にむけ声かけを行う。また集中して座れるように、体育等で体幹を鍛える。	家庭学習がんばりカードで家庭学習の充実を図る。引き続き、集中力定着のために、話す・聞く姿勢や体幹を鍛える等の取り組みを継続して行う。	① 家庭学習の手引きや自主勉強の見本を提示し、意欲付けができた。 ② 家庭学習充実月間には、家庭学習がんばりカードを活用し目標を達成した児童が全校で91%であった。 ③ 学校では朝の読書やリーディングバディや多読賞などの表彰で読書への意欲定着することができたが、家庭での読書への肯定的な評価は40%だった。 ④ 学年に応じて朝の会や体育の時間に体幹を鍛えることができた。	自主勉強の仕方を教職員間で意識を統一して指導していく。取り組み方について、統一するところを次年度早々に話し合う。また、家庭学習の手引きを複数回配布することで学習意欲へとつなげていく。積み重ねてきた学びを視覚化することで、自信や意欲付けを行っていく。集中して学習に取り組めるように、授業規律を徹底したり立腰を意識させたりする。

令和6年度 学力向上ロードマップ

